

令和2年度岡山市障害者自立支援協議会

精神保健福祉部会報告

相談支援事業所かなで 堀家康子



- 頻度: 1回／月 年10回

- 参加メンバー

精神科医: 1名(岡山大学病院)

病院PSW: 1名(岡山県精神科医療センター)

地域部会: 中央北・東部・南西 3名

(仲よし・かなで・コンドル)

行政: 3名(健康づくり課)

4つの重点課題

• 医療と地域の情報共有

• 精神科クリニックとの連携

• 発達障害への理解と対応

• 保健師との連携

精神保健福祉部会*の土台*

～精神障害者地域包括アセスメントシート

令和2年度の活動

岡山市地域精神保健福祉連絡会と情報交換会
* (令和3年2月8日実施)

医療と保健福祉との連携について検討する会
* 医療機関編 (令和2年12月11日実施)

精神科クリニックへ集計結果及び障害福祉サービスに関する情報提供

精神神経科診療所協会への再アンケート精査。
(対象: 市内クリニック42ヶ所・回答35)

機関連携シートの活用
(内容精査と前年度積み残し部分の検討)

☑ 機関連携シート(上手くいっていること)

* シートは研修会で情報提供

地域部会・医療機関・行政で聞き取り調査をした機関連携シートを整理。

大項目(部会の掲げる4つの重点課題)・中項目(アンケート結果を部会員がKJ法で分類した項目)・小項目(具体的項目に整理したもの)。

(一部抜粋)

- ・研修会等は顔合わせの機会。
- ・PSWがいると連絡窓口になってくれる。
- ・こまめな連絡で顔なじみ。
- ・ケア会議を通して相談しやすい関係づくり。
- ・退院時カンファレンスへの参加。
- ・直通電話の交換。
- ・役割分担が事前にできている。 などなど



☑ 精神科クリニックとの連携

<目的>

岡山県精神神経科診療所協会所属の先生方に直接、福祉と医療の連携についての現状を聞き、**精神保健福祉部会において他機関連携の場**に実践的に反映する。

<内容>

* アンケートは協議会HP掲載

<結果>

相談支援事業所の認知や活用が他のサービスと比較すると低い。一方、ヘルパーや就労系は活用されている。導入提案は、ヘルパー・訪問看護は医師のニーズが高く、就労系は患者からの提案が若干多い。また、診療所内で窓口になる職員は医師が飛びぬけて高く、精神保健福祉士は低い。連携依頼は患者を介する方法や診察時に合わせた方法が見られ、支援機関との面談を設定し対応する事が少ない。



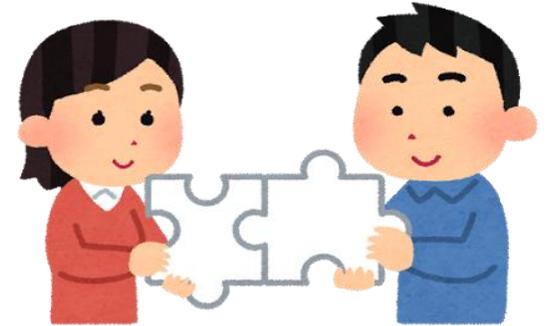
☑ 医療と保健福祉との連携について検討する会 * 医療機関編

日時：(令和2年12月11日実施)

対象：市内精神科病院の精神保健福祉士

参加：市内精神科5病院(PSW:10名)を含む18名

内容：地域連携をグループワークにて実施



<どうすれば連携が上手くいく？>

- ・連絡先の人となりをしっかり知ること
- ・入退院時に病院と地域が早めに情報共有
- ・メーリングリストの活用や定期的なケア会議
- ・研修の参加(実践の振り返りが出来る)
- ・年度末、年度初めの顔つなぎ会議

などなど

☑ 岡山市地域精神保健福祉連絡会との情報交換会

日時：(令和3年2月8日実施)

参加：精神部会含む24機関40名

内容：①情報提供「新型コロナウイルスの現状と感染対策」

岡山市保健所 松岡宏明氏より

②精神保健福祉部会 活動報告

③地域精神保健福祉連絡会 活動報告

④パネルディスカッション

(各福祉区ごとの課題共有と掘り下げ)





☑ 精神保健福祉部会における来年度への繰り越し課題

- 連携情報シート(困っていること)の整理・分析
- 精神科クリニックアンケートの活用方法の検討
- 障害福祉サービス以外の医療機関等から課題抽出の場の検討
- 部会が考える重点課題と地域連絡会との連携